

**平成27年度
第2回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：平成27年11月18日(水)

場 所：鶴岡市藤島庁舎3階大会議室

第2回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

○日 時 平成27年11月18日(水) 午後1時30分～3時30分

○会 場 鶴岡市藤島庁舎3階大会議室

○出席委員（五十音順） 7名

上野隆一、奥山康光、佐藤二美、鈴木紀生、高山千代子、田中壽一、丸山克夫

○欠席委員 8名

五十嵐笑智子、上田実、小野寺菊子、佐藤耕喜、澁谷晃、相馬大、富樫達喜、富樫正明

○市側出席職員

〈藤島庁舎〉 支所長 佐藤正規、総務企画課長 丸山隆逸、市民福祉課長 叶野明美、
産業課長 東海林良哉、東部建設事務室長 太田実、総務企画課課長補佐 井上克浩、
総務企画課総務地域振興専門員 鈴木理恵、総務企画課専門員 叶野進
〈本所〉 政策企画課課長補佐 粕谷一郎、政策企画課主査 上野修、
地域振興課地域振興専門員 齋藤芳

○傍聴者 なし

○次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協 議

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

(2) 地域課題、地域活性化全般に関する事項について

①第1回懇談会意見等

②鶴岡市の住民基本台帳人口と世帯数

(3) その他

4 閉 会

【会議の概要】

1、開 会（丸山総務企画課長）

2、会長あいさつ（上野会長）

3、協 議

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

－ 政策企画課主査 資料1により説明 －

(2) 地域課題、地域活性化全般に関する事項について

①第1回懇談会意見等

－ 総務企画課長 資料2により説明 －

②鶴岡市の住民基本台帳人口と世帯数

－ 総務企画課課長補佐 資料3により説明 －

3、協 議

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

－ 政策企画課主査 資料1より説明 －

○上野隆一会長 ご意見等お願いします。

○高山千代子委員 5ページの重点施策「市民生活」に地域コミュニティの維持・活性化とあります。23ページ「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」には少子化対策などがありますが、2点、質問です。最近、地区地域活動センターを使おうとすると手続きが不便になっています。仮予約できず、職員の勤務時間内に出向いて本申請しなければならなくなっていて、皆さん忙しい中で活動しているのに、活性化とかいいながら逆行しているのではないかと思います。

それから、子供たちがいっぱい増えること、結婚する若い人が増えること、子育て支援、少子化対策といいながらも、こりす保育園は指定管理化で民間委託され、逆行することが起きています。行財政改革や私たちにみえないことがあるかもしれませんが、残念に思います。民間になったから安心できないというのではないのですが、手厚い対応が薄れるのではないかと心配しています。

○上野隆一会長 子育ての問題と旧公民館の活用の問題です。回答お願いします。

○丸山総務企画課長 旧公民館、現地区地域活動センター使用申請の件ですが、以前から申請書の提出については、仮予約後、3日前までの本申請書と決まっていた。手続きは今まで同様です。

○上野隆一会長 変わっていないという回答ですが。

○高山千代子委員 電話予約はできなくて申請書提出が必要というやりとりでした。予約ができないと言われましたが勘違いでしょうか。使いづらい印象を受けています。合併して鶴岡市の施設となっているわけですが、他の地域の人が使いづらいという話もあるのでお聞きしました。

○上野隆一会長 使い方の規定は藤島は藤島だけですか、旧鶴岡市とは関係なく独自の運用ですか。

○丸山総務企画課長 基本的には全市統一です。使用基準は大きく変わっていません。

○上野隆一会長 使う方が不都合だと感じていれば、不都合があるのでは。

○丸山総務企画課長 事前予約できないことが、使用しづらいことに影響していますので、担当に確認しまして対応をしていきます。

○上野隆一会長 子育ての問題について回答お願いします。

○叶野市民福祉課長 藤島こりす保育園は、9月25日の議会を経まして、社会福祉法人「ふじの里」

に指定管理が決定しました。このことは11月の広報でもお知らせしているところです。民間でできることは民間でということで、鶴岡市がやるからいいものという感じはもっておりません。特に保育業務については、藤島児童館がすでにならば幼稚園に指定管理をお願いして、前よりも使いやすくなった、すぐ対応してくれるなど、いい意見、感想を頂戴しているところです。藤島こりす保育園は「ふじの里」に決まりましたが、きっといい運営をしてくれるものと信じて指定管理を選定したものです。選定につきましては二つの法人が手を挙げてくださいました。選定項目それぞれを比較しまして「ふじの里」の方が良いということで選定しています。民営化として指定管理になっても、庁舎と離れるわけではないので協力しながらやっていきます。今、職員募集もしておりますので、委員のみなさまからも知り合いの方などありましたら募集に協力いただけたらと思います。

○高山千代子委員 良い運営ということですし、私としては、子供たち、そして保護者にとって良い環境で良い教育方針であってほしいというのが第一で、運営上で悪くなつてはいけないなと思っていますので、よろしくお願いします。

○上野隆一会長 民間運営については、確かに行財政改革でずいぶん検討されていまして、その時私も行財政改革推進委員だったものですから、基本的に役所でやるのがよくて民間でやるのがいけないというのはひとつの考え方として住民の中にはあるようです。でも私は民間でやったほうがいいものがいっぱいあると思います。例えばゴルフ場なども民間委託されてかえって良くなったと感じます。役所から離れて悪くなるともいえないし、必ずよくなるともいえない。地域の人たちが見張って、よくなるように働きかけていけばよくなる。民間にしたほうが柔軟な対応になる可能性があると思います。

○叶野市民福祉課長 指定管理決定までの経過をお伝えします。高山委員からありましたように保護者の意見をいただくということで保護者説明会を6回開催しています。指定管理が決まる前に民営化について突然すぎる、不安だという意見をたくさんいただきました。指定管理が決まった10月上旬の説明会では、今までだったら人事異動で2、3人先生代わるくらいですが、民営化だと全員代わることになります。そうすると子供たちは担任かわっただけでも不安なので、なんとか先生たちから残っていただきたいというご意見が多くありました。ふじの里には、今まで臨時職員でいた先生たちにぜひ引き続きふじの里で勤務していただけるようお願いしているところです。

○上野隆一会長 次の発言をお願いします。

○鈴木紀生委員 鶴岡市全体、あるいは全国でも人口減少がすすんでいるわけですが、人口減少の中でも特に超高齢者といわれる年齢の方々が増えています。この前八栄島地区老人クラブの役員会のとときに話題になったのですが、80歳を超えた高齢者がいっぱいいて、その世帯に若い人がいればいいが超高齢者夫婦だけで生活している方は足の確保が困るということです。藤島の元町であれば地元スーパーがあるし不便を感じないでしょうが、買い物難民という形で理解できると思います。鶴岡に通院するにも足が無いと。長沼地区も同様かと思うので、長沼地区、八栄島地区を抱き込んだ足の確保、これをなんとか考えていただきたい。高齢者の場合は特に交通事故も増えているし、運転免許証を返

還する方もあり、ますます不便になるので、どういふ方法があるかわかりませんが足を確保する交通手段をここ3年くらいの間に確保してもらえたらありがたいです。

それから農業問題、ひとつは今、規模拡大が進められていますが、はたしてその規模拡大が地方創生に結びつくのかどうか。わたしが考えるには、私も4、5年前規模拡大しようかと思ひ専門家に検討してもらいました。その結果は、現16町歩以上になると逆にブランド力が無くなるとのことでした。管理が十分にできなければ百貨店納入ができなくなることから、規模拡大のための補助金は辞退するというにしました。鶴岡市全体では規模拡大ということも必要だろうけれども、家族農業経営で質の高いものを生産する農家の育成もやっぱり必要だと思ひています。この前もイベントで日本橋の高島屋に行ってきましたけど山形県のラフランスが1個6,000円でした。破格な価格で売られています。やる気のある家族農業経営を掘り起こして育てていくことができれば、やがては少子高齢化の抑制に役立つのではないかと考えます。

○**上野隆一**会長 農業施策の考え方ですから具体的にどういふことではないですが、活性化の方向がひとつではないというご指摘のようです。多様した活性化、方法はあるんだということをお認めしてもらえればいいんだと思ひます。高齢者の福祉対策、交通確保についてお願いします。

○**丸山総務企画課長** 高齢者の方々の足の確保について、ここ3年くらいで対応をというご意見でした。八栄島地区、長沼地区については、以前は鶴岡から元町を通過して、八栄島～長沼～三川町の庄内総合支庁が終点というバス路線がありました。それが廃止になってだいぶ経過したところ。東栄地区においても、バス路線が廃止になった経過があり、廃止と同時に東栄地区に藤島地区の3町内会を加えた協議会を立ち上げ、タクシー会社と契約をして「デマンド交通」を実施しているところ。最近、長沼地区から東栄地区のようなデマンド交通の体制にしたいと要望がありました。地元での組織化、負担金など今後検討していくところ。長沼地区で体制を整えれば、八栄島地区も含めて検討がすすむかと思ひます。

○**東海林産業課長** 鈴木委員の発言はご意見としてうかがいたいと思ひます。先日、東洋大学に行く機会がありました。東洋大学の学生との交流が来年で10周年を迎えるのですが、交流を通じて藤島の地が気に入った学生が、鶴岡に越してきたいと、伴侶も鶴岡市の方と結ばれたい、農業に従事したいという方がおりました。そういう方がもっと増えてくれたらと思ひます。

○**鈴木紀生**委員 農家に生まれて、農家で育って、悪いところばかりみてきているものだからはっきり言って意欲がない。発想の転換がない。今、若者で農業で成功しているのは、農家育ちではない。農業に魅力を持って就いて、あまりお金の追及しないで作ると、質の高い農産物ができてくる。そこに収入が後を追いつながら結びついていく。かなり勉強もしなければならぬけれど、そういう若者が外部からくる、あるいは農家の後継者の伴侶としてくる人があれば最高だと思ひます。ラ・フランス1個6,000円というのは、誰もができるものではなく、努力の賜物。規模拡大はそれでいい。もう一つの方法として家族でこなせる経営ができる農家を育てるのはどうかという意見です。発想の転換が必要なので、規模拡大してずっとやっていると、ますます人口は減少していく。藤島で考えられるのはやっぱり家族農業経営、質の高い農産物を生産、供給していく、能力のある者を育てていく、例えば

東海林課長がいったように、東洋大学からこちらにきて農業やりたいというのであれば農業で育っていないわけですから発想の転換がある。そういう方を育成したらどうかということです。

○**上野隆一**会長 委員のみなさんから提案された内容は現実的な内容です。鶴岡市総合計画実施計画には現実的な問題があまり盛り込まれていない。現実的な問題がよく説明されてなく、ただ夢物語だけ書かれているようなことは実はずっと前から続いているわけです。今までの足跡はどうだったかという説明がないものですから違和感を感じたということです。

(2) 地域課題、地域活性化全般に関する事項について、2つの議題の提起があるようです。連続して説明をお願いします。

(2) 地域課題、地域活性化全般に関する事項について

①第1回懇談会意見等

－ 総務企画課長 資料2により説明 －

②鶴岡市の住民基本台帳人口と世帯数

－ 総務企画課課長補佐 資料3により説明 －

○**上野隆一**会長 地域課題、地域活性化全般ということです。当然のことながら人口の減少と高齢化というのが非常に大きく我々の肩にのしかかっていると言えます。これをはねかえすというのは並大抵のことではありませんし、縮小社会を迎えながらも活性化を失わないで生きていくというような、そういう社会をつくれるのであれば最高であろうと思います。ご意見のある方、発言ください。

○**田中壽一**委員 資料2の回答にありますように歴史公園に「大藤」を植栽していただけるようになりました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

(1)に戻るのですが、冒頭上野会長もいわれましたように、この計画がすべてできればいいわけですが、このことが何年も前から示されていたということですし、また、藤島地域の取り組みとしても3項目ほどありました。農業関連、歴史公園、伝統芸能と全て私関わっていますので、3か年計画の中で、ぜひ具体的に示していただければありがたいと思います。地域活性化ということで、少子化について、子供たちが増えて地域活性化なれば一番いいわけですがけれども、そう簡単にはいかないと。ただやはり施策として子育て支援、生活支援をしていくことが大事だと思っています。日本全国で人口減少、少子高齢化の対策をしています。でも日本全体で人口は増えるのかと、そうはならないと思います。いかに高齢化の中で、長寿命化、福祉、介護事業を支援していくことが大切だと。いわゆる元気な高齢化社会が大事でないかと思っています。

農協でも今年の4月から訪問介護等事業をしています。地域において、老人介護を必要とされる方の待機者がいっぱいいます。民間の施設が多く存在しますが、そこで働く人がいないのが実情です。行政での対策、地域だけでなく庄内全体の視野で取り組んでいただければと思います。

○**佐藤藤島支所長** 介護職員確保のお話しです。施設はできても従事者の確保ができなくて、営業できないというケースは東京等の大都市だけの話しと思っていたのですが、この辺りもそういったことがあると聞いております。介護職員の確保については全国的な課題ですが、現在、県では数値目標を

定め事業に取り組んでいます。例えば介護従事者が一堂に会して合同入職式を実施したり、介護職のイメージアップのためのイベント等も実施しているようです。また、処遇改善も課題としてありますが、介護保険は介護報酬をあげると介護保険料に影響する財源構成になっております。今年、介護保険料改定の年だったのですが、鶴岡市もかなり保険料は上がっており、介護報酬と65歳以上の方の介護保険料とのバランスの関係もございますので、なかなか大幅に報酬をあげるというのは難しいところがあると思います。介護職員の確保が難しいという現状の中、課題として捉えてはいるものの、その解決策は現在模索中という状況かと思えます。

○田中壽一委員 デイサービスはあるわけですが、ショートステイ、長期滞在を希望する方の数は把握していますか。

○佐藤藤島支所長 鶴岡市全体で特別養護老人ホームの待機者が、平成26年4月1日の段階で、1,300人ほどです。その数値を基に施設整備をしているわけですが、待機者全ての施設整備をするとなると膨大な介護保険の給付費になりますので、そこはバランスをみながらとなります。今年度から特別養護老人ホームは介護3以上の方が入所条件となりました。これからどんどん高齢者が増えてくることから、施設というよりはできるだけ在宅でという方向性で進んでいくものと思います。

○丸山克夫委員 人口減少の中で、各市町村で定住・移住の促進をやっているようです。鶴岡市の場合、移住・定住マップのような資料がやっとできたようです。今までの取り組みはちょっと遅かったのではないかと感じます。鶴岡市独自の制度などあるのですか。それと、人口は減るけれど世帯数が増えているということは、いずれ空き家の問題がさらに大きくなっていくのではないかと思います。婚活もあるけれど、二世帯、三世帯と同居するような対策、そういうのも少し検討してはどうか。転入で世帯数が増えるのはいいと思いますけど、ただ世帯から、若い人が離れて年寄りばかりになったという世帯の増え方では将来的に問題ではないかと思えます。移住・定住マップ作成の際、私も作業に参加させてもらったのですが、その時のコーディネーターの方が本当は自分は藤島に住みたかったんだと話していました。でも、空き家の情報がなかったものだから鶴岡市内に住んでいるそうです。同じ鶴岡市なのでいいですが、藤島は給食が魅力だったと言っていました。情報がなかったといわれると、残念だったのですが、その辺の情報あればお願いします。

○上野隆一会長 定住政策がどういう内容になっているのか、それから複数家族、高齢者がひとりの世帯だと心配なのでそれが複数一緒に住むというような発想もあるのでしょうか、こういうことを政策の中に盛り込む可能性があるのかどうか、回答をお願いします。

○粕谷政策企画課長補佐 移住・定住政策につきましては、上野会長さんにも委員となっていて、総合戦略の中で、人口減少対策ということを総合的に検討した結果になっておりまして、鶴岡市総合計画実施計画、20ページにダイジェスト版としていくつかの施策を記載させていただいております。さきほどコーディネーターという話が出ましたが、移住コーディネーターということで市役所に1名常駐の職員を配置し、さまざまな情報収集並びに仕事、空き家といった情報を総合的に提供するという専門の職員を配置しております。また、県のほうでも移住・定住の取り組みをしてい

まして、東京有楽町に専門の事務所を置いて、相談窓口を設置しています。今まで国の事務所は永田町にあって土、日はやっていないという形だったのですが、相談しやすいように相談窓口を置いています。こちらでも情報提供していますし、年に何回かイベントや相談会で、鶴岡市の魅力をプレゼンテーションするような機会もいただいています、積極的に活動させてもらっています。また、最近新たに移住に関するパンフレットを作成しまして、東京で開催された全国規模の移住のフェアでPRしてきたところです。移住のパンフレットは、移住された方の体験談やそれぞれの地域、旧町村部の地域の魅力などを盛り込んだものです。自画自賛になりますが、非常に良くできている冊子ですので、せっかくの機会ですのでご覧ください。後ほど配付させていただきます。また、もう一点の同居のお話ですが、確かに資料3をみますと人口減っているのに世帯数が増えているという現状がございます。これは、家を出て若い世帯、夫婦が別のところで生活している結果が大きいかと思えます。同居を進めるというのも、重要な視点かと思えます。今後の移住・定住、人口減少対策のひとつと捉えて検討させていただきたいと思えます。今までのところそういった視点で捉えていなかったのが、改めてそういった視点も必要かなと感じております。

○丸山克夫委員 他の自治体だと補助金があったり、家賃無料だとかききますが、鶴岡市でもやっていますか。あまり情報がないのですが。

○粕谷政策企画課長補佐 家賃無料というのはないのですが、空き家を使って新たに入居する場合もしくはリフォームする場合、若い人や、U、Iターンで移住される方については、多少の優遇制度がございますが、そういった制度が十分PRされていないというご指摘と思えますので、PRしていきたいと思えます。

○佐藤二美委員 空き家について、自分が生活していて身近な問題の一つでもあるなと思っています。うちの近所にも1件空き家あり、息子さんは都会のほうで生活されていて、そのお家そのままなんです。総合計画の中にも対策ということで実態調査があります。寄付できるとありますが、どのような手続きになるのか、要らないからどうぞということができるのかお聞きしたいです。

○粕谷政策企画課長補佐 空き家の寄付を受けるというのは、寄付を受けて解体し、それを必要な方に転売をするという場合です。そういった空き家のことを指しては、すべての空き家を鶴岡市で寄付を受けるということではないです。ある程度需要が見込めるもしくはその土地で、どちらかといえば市街地の中心部になるわけですが、政略的に土地を使うことによって中心市街地への定住を促せるようなものというような判断をしております。

○佐藤二美委員 中心市街地で立地条件の良いところにある空き家だけということですか。もう一つ、そういったお家の親族の方、お子さんに行政からコンタクトはとっているのでしょうか。

○丸山総務企画課長 空き家の管理の関係で、親族の方がいないといった場合の対応というご質問です。壊れる寸前だという空き家が増えつつあり、地域の方から、隣接する方から相談があります。現地の調査をしまして、所有者が確定でき、連絡がつけば適正な管理をお願いしています。当然近くに

いない場合は、親戚の方、町内会の中に知り合いの方があればその方をお願いしてとか、自分ができないとすれば、業者をお願いしてもらうなどしています。連絡つかない場合は、書面をお願いしています。

○**上野隆一会長** 奥山委員何かありませんか。単なる質問でなくてこういうことを考えているとか、こういうことをやる方向で地域をリードしたいというような発言ありませんか。

○**奥山康光委員** 私の知り合いの農業法人に入社した方がどんな方かと聞きますと、インターンシップでという方が多いようです。ハローワークで就職しても結局すぐ辞めてしまうけれど、インターンシップの場合、先に経験してその会社の理念等を学んでいるものですから、辞める方も少なく、一生懸命がんばっていると聞きます。先ほど産業課長のお話で、東洋大生が移住して農業に就きたいという話がありました。全国の高校、大学にもっと積極的に鶴岡へのインターンシップの募集をしたほうがいいと思います。あと、結婚や子供のことになりますが、私の町内会にも未婚の方が多くて、結婚がなかなか難しいかなと思うところです。

○**上野隆一会長** 東洋大の学生のお話、私も非常におもしろいと思って聞きました。このパンフレットの表紙の方もあまり庄内に縁もなく来た方のように。庄内に関係ない人が住み続けてくれるのは、庄内に魅力があるからだろうと思います。そういう人たちの考え方、感じ方を集約して何かそこから活路を生み出す方法もひとつあっていいかと。ただ単に案だけを述べるのではなく、案の中からひとつの行動を起こし、準備をして、このような政策を打ち出していったら可能性があるのではないかと。ある程度のお金が呼び込めないと人も呼び込めないのでないかなと思っています。冒頭でなぜ台湾や大連のことを話したかといいますと、日本は消費水準が下がってしまっていて、人も少なくなって歳もとってます。ところが中国の賃金所得は上がっているわけです。一人あたりの国民所得が日本は27番目、韓国は31番目、台湾は36番目だったか、中国はGDPだと日本の2倍ですが、人口が日本の10倍あるので順位でいうと80位くらいですが、先ほどお話ししたように、購買欲をもっている層が、約2、3割あります。日本以上に購買欲をもっていて、こういう購買欲に対してどういう接触を図っていくかということを実際に考えていくだけでも、お金をこちらの方にもってくる対策が生まれくるのではないかと。お金が生まれれば当然人も集まります。人が少なくなっていけばお金も少なくなっていく、比例していくと思います。ですから、今までとは視点を変えた対策、考え方を基盤にして、次の時代に立ち向かっていくといければいいかなと思っています。

○**田中壽一委員** イベントの実行委員長をしていますが、東洋大生の協力があって成り立っています。東洋大生が無償で協力してくれています。取り組まれて10年くらいなっていて、活動の締めくくりとして毎年提言をいただいています。様々な分野にわたって提言いただいて感謝しています。農協職員の中にも東洋大生います。やっぱり藤島の魅力を感じてきた方々を、大事にしていきたいと思いません。東洋大学となるとマンモス大学なので、農産物の販売なども試みましたが、これは仕入れの関係で定着しませんでした。つや姫PRイベントもしました。消費拡大にもつながればと思っています。庁舎とも連携して取り組んでいきますので、よろしくお願いします。

○奥山康光委員 まちづくり塾は、若い方が在籍されていると思いますが、そちらの意見というのはどういったものだったかが知りたいのですが。

○上野政策企画課主査 まちづくり塾につきましては、各地域ごと活動いただいておりますが、全体会が今週の月曜にありまして、本日と同じ資料でご意見をうかがったところです。広い分野なものですから、若者の移住・定住に絞ってご意見をいただきました。住むところについては、空き家を回るツアーを組んで紹介したらいいのでは、その場合でも、鶴岡は四季が豊かでありますから、年4回はきてもらい、それぞれの季節での魅力をわかってもらえたいうえてきてもらったらいいのではという提案がありました。仕事については、職場をつくる、手に職を持った人がきて、できる環境をつくるなどの提案がありました。

○鈴木紀生委員 旧藤島町内の40歳位までの未婚男性は何人いるか数字把握していますか。

○粕谷政策企画課長補佐 今日データは持ち合わせておりませんで、未婚率として鶴岡市全体では、平成22年国勢調査のデータとなりますが 25～29歳までの男性の未婚率は66.5%、3人に2人は未婚、30～34歳42.6%、5人に2人は未婚、35～39歳33.3%、3人に1人は未婚、40～44歳28.8%、45～49歳22.2%、50～54歳18.4%となっています。女性は、25～29歳50.9%、30～34歳26.0%、35～39歳18.2%、40～44歳12.7%、45～49歳8.2%となっておりまして、このデータは旧町村ごとに分けることができますので必要であれば準備できます。

○鈴木紀生委員 私が知りたいのは今現在の藤島地域にいる結婚適齢期になった未婚男性の実数はいくらかです。藤島歴史公園の活用について提案したいと思いますが、前の地域審議会の中でも一度申し上げております。せっかく公園完成していますのでここで婚活イベントとして1回くらいは使う必要があるのではないかと。会場を提供して、例えばテレビ番組で、遠方から未婚女性を募集して45人くらい参加すると10数組はカップルになっている。歴史公園の有効活用として、藤の花が満開のときに開催し、2日間で近隣を紹介すればいいのではないかと。前の地域審議会のときは発言しても何の返答もなかった。ほかの委員の方も結婚して藤島に住んでもいいという被災者の女性のはなしをしたときも話しにならなかった。そうすると、ここでいろいろ話をしても、実際本当に婚活事業に取り組む気があるのかないのかわからないと感じる。経費のこともあるわけですから、テレビ局と連絡をとって可能であれば地元負担はそんなにかからないのではないかと。一つの方法として提案です。

○上野隆一会長 非常に厳しいご指摘です。審議会で話をして、2時間で終わったと。鈴木委員の提案はおもしろい。これ誰かやらないかというお話しですから、何かしら具体的に回答をいただきたいところです。

○丸山総務企画課長 歴史公園を婚活の場というご提案です。私としては一度でなく何度も開催したいと思うわけですが、歴史公園で開催となりますと、やはり9尺藤が咲いて、30m四方の棚が咲いたロケーションの中でというイメージをしています。藤が咲くまでは若干の期間があるわけですが

が、冬期間はイルミネーションを設置する計画もありますので、それも活用しながら、貴重なご意見頂戴しましたので、実現できるようにがんばっていきます。

○鈴木紀生委員 庁舎の方で、変な回答するなど本所から圧力かけられていたのかと思ってました。

○佐藤藤島支所長 基本的に婚活事業は、イベントだと継続性がなく、その時で終わりになるので、婚姻に至るまでの数が少ないという事業効果という面の理由もあると思います。鶴岡市では継続的な支援として「つるおか婚シェルジュ」を実施しています。また、鈴木委員から提案あったように藤島歴史公園の活用についても地域としては重要な課題ですので、総務企画課長回答のような活用方法もあるかと思いますが、行政というよりは、むしろ観光協会さん、商工会さんあたりからメインになってやっていただいたほうがうまくいくと思いますので、なお協議を重ねていきたいと思います。

○鈴木紀生委員 私も商工会からぜひ、一緒にやってもらったらいいなと思います。十一屋の藤島まんじゅうは東京でも評判がいい。東京にない味のものも藤島にはあるのだから。商工会も一緒にやって、お互いがよくなる方向でできたらと思います。出会いの場を設けるのは、何回もやる必要はない。結婚できるかどうかは出会ってからの本人の努力なので。

○上野隆一会長 未婚率の話在先ほどお聞きしましたが、以外に高いと感じました。ですから、人を増やし、活性化を図るのに一番現実的なのは、今独身の男性と女性を結びつけるのが簡単なわけです。簡単というか、他から5人、10人連れてくるのはたいへんだが、地元で男女を結びつけるのが比較的簡単なわけです。ただ、結婚に対して前向きに取り組んでいけない状況があるものですからなかなか婚活がいわゆるほど進まないわけです。でもマーケットはいっぱいあるわけです。これはやはり結婚を前進させるために鈴木委員の提案もひとつですし、これに正面から行政、商工会、観光協会も向き合うということをお願いします。

○奥山康光委員 総合計画の中の「シルクタウンプロジェクト」、添川の方亡くなられて養蚕する方がいないと聞いていますが、その後の動きは何かありますか。

○上野政策企画課主査 添川の加藤さん亡くなられて、養蚕業やられている方はいないということです。別の動きとして「繭人」ということで、個人で蚕を飼ってもらったり、幼稚園、学校で飼ってもらったりということは、数年前からやっています、活動は続けています。生業としてやることのできるかどうかということは、桑を育てることから関係してくるのでどこでもいいわけでもないものですから、農薬がかからないところで育てられるかということも含めて、農政課と検討しているところです。

○奥山康光委員 東栄地区の方が心配をしています。というのは、ヘリ防除ができず、高くて効かない農薬を使用しなければならないとっていました。同じ藤島にしながら気の毒だししかいえないのですが、方向性が決まれば早く教えてあげた方がいいのではないかと思います。伺いました。

○上野隆一会長 協議は終了します。

(3) その他 事務局では特に用意はありません。

○上野隆一会長 みなさんから何かあればお願いします。

○丸山克夫委員 要望です。計画書は全市民に見せるということはないでしょうけれど、横文字が多すぎるのではないですか。もう少し日本語で書けないのか。

○上野政策企画課主査 極力気を付けています。難しいものは、注釈もつけておりますが、今後も気を付けていきます。

○上野隆一会長 これで第2回目の懇談会を終了します。ご協力ありがとうございました。

7、閉 会 (丸山総務企画課長) 本日は貴重なご意見等ありがとうございます。本日の会議録はみなさんから一度確認をしていただき、ホームページに掲載となりますのでよろしくお願いします。次回は2月頃開催させていただきます。以上をもちまして、第2回目の藤島地域懇談会を閉会いたします。ありがとうございました。